

第16号
No.16

令和5年11月1日発行
November 1, 2023

特定非営利活動法人東京モンテッソーリ教育研究所

T. I. M. E.

Tokyo Institute of Montessori Education

<https://montessori.or.jp/>

Chair Person Yumiko Hirose General Secretary Kazumi Aoki

理事長 廣澤弓子 事務局長 青木和美

Editors Ph.D. Masako Ejima Kazuko Hotta

編集委員 江島正子 堀田和子

〒112-0002

東京都文京区小石川2-17-41

富坂キリスト教センター2号館内

Tomisaka Christian Center 2

2-17-41 Koishikawa

Bunkyo-ku, Tokyo, Japan

Tel. 03-5805-6786

Fax. 03-5805-6787

✉ info@montessori.or.jp

巻頭言

平和と教育



東京モンテッソーリ教育研究所 附属教員養成コース コース長

前之園 幸一郎

90年も以前にモンテッソーリによって表明された「教育は平和のための武器である」との言葉は今日の私たちに多くのメッセージを提示しています。モンテッソーリは「人間の運命を決めるのは人間自身です。人間がみずからの手から武器を捨て去るその瞬間に、人類にとって光輝く日が始まるのです」とも述べています。このモンテッソーリ思想の中核的部分が戦争と武力の永久的な放棄を規定した日本国憲法第9条に明確に受け継がれています。世界に誇るべきこの高い理想を掲げる我が日本国憲法の精神の具体的な実現が、他人事ではなく激動する今日の世界情勢のなかでの私たちの自覚的な責務となっています。

モンテッソーリは、さらに「戦争は実のところ、武器がその原因となるのではなく、人間がそれを引き起こすものなのです」と述べて、戦争を引き起こすのは人間だと明言しています。モンテッソーリのこの考え方は、1945年に採択されたユネスコ憲章前文「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない」の中にそのまま明記されています。これは子どもの人格形成にかかわる重要な問題です。モンテッソーリ教育の根底にあるもっとも重要な部分がここに示されているように思われます。

1981年に来日したローマ教皇ヨハネ・パウロ二世は、広島市の平和公園で「平和アピール」を行いました。平和公園に残されている石碑には「戦争は人間の仕業です。戦争は人間の生命を奪います。戦争は死そのものです」と刻まれています。90年前のモンテッソーリの平和についての考え方がローマ教皇の言葉として語られています。

モンテッソーリ教育によって誕生する世界中の「新しい子ども」(il bambino nuovo)たちが平和な世界のために人類の先頭に立って私たちを導く時代がすでに到来しているのです。未来社会の約束であり希望である子どもたちの豊かな人間性と魂に奉仕する私たちには、子どもの「心の中に平和の砦を築く」重い責務が課されています。日常的な日々の実践の積み重ねの中で「育てながら育ち 育ちながら育てる 子どもと共に」(広島コース 下條善子)をモットーに私たち教師は各自真摯な自己変革が求められているのです。

賛助会員募集について

特定非営利活動法人東京モンテッソーリ教育研究所では、当NPO法人の目的および事業に賛同して事業を賛助する個人及び団体会員を募集しています。
是非、当NPO法人の趣旨にご賛同いただき、会員としてご協力下さいますようお願い申し上げます。

賛助会員	入会金	年度会費
	10,000円	個人・団体 一口5,000円 ※一口以上からの申込み

入会ご希望の方は、当研究所まで電話またはFAX、E-mailにてお知らせください。申込書をお送りいたします。
電話番号：03-5805-6786 FAX番号：03-5805-6787 E-mail：info@montessori.or.jp

東京モンテッソーリ教育研究所 令和4年度収支決算

収入の部		単位:円
入会金		
	個人	40,000
	団体	0
会費収入		
	個人	250,000
	団体	10,000
事業収入		
	教員養成事業	19,216,500
	指導者支援事業	69,000
	広報事業	0
雑収入		1,433
経常収入合計		19,586,933

支出の部		
事業費		
	教員養成事業	10,604,359
	指導者支援事業	106,442
	広報事業	187,974
管理費		
	役員報酬	150,000
	人件費	217,823
	外注委託費	1,800,000
	会議費	38,000
	旅費交通費	6,846
	通信運搬費	164,244
	消耗什器備品費	67,800
	消耗品費	91,513
	感染症対策費	21,593
	光熱水費	34,026
	賃借料	351,576
	租税公課	575,100
	雑費	136,556
経常支出合計		14,553,852

当期収支差額	5,033,081
前期繰越収支差額	57,261,611
次期繰越収支差額	62,294,692

令和5年4月22日 上記の通り相違ありません。 事務局長：青木和美

編集後記

コロナが5種に変わり、マスクをするのは本人にまかされています。しかし、身近な周りの仕事仲間から、コロナになった、というLINEが入ってきました。やっぱりすごく注意しなければならないんですね。昨日、日本歯科大学付属病院で歯の定期健診をやってもらったら、紙の保険証の支払いでなく、マイナンバーカードに紐付けられた保険証での自動支払いでした。日本の社会もどんどん変化しているのも実感しました。モンテッソーリ教育が更により普及し、子どもたちの未来に真の平和が来ますように祈ります。 江島正子

令和4年度研究所活動報告

1. 会員の動向（令和5年3月31日現在）
 - ①新規入会 正会員 個人 2名 賛助会員 なし
 - ②退会会員 正会員 個人 1名 賛助会員 なし
 - ③会員数 正会員 個人 24名
賛助会員 1団体（2口）
2. 活動報告
 - ①教員養成事業 令和4年4月 第17期生 27名入講
令和5年3月 第16期生 27名修了
 - ②指導者支援事業 令和4年8月 第12回実践実技研修会
開催
於 世田谷聖母幼稚園「数教育」
 - ③ホームページ等による広報事業
「モンテッソーリ教育」（学会誌）第54号に広告掲載、令和4年11月に「T.I.M.E.」第15号を発行。ウェブサイトを通し、広く一般に東京モンテッソーリ教育研究所及び、付属教員養成コースの活動を発信し、モンテッソーリ教育の普及活動を行った。
<https://montessori.or.jp/>
以上
事務局長 青木和美

令和6年度入講生募集のお知らせ

- 募集定員：土曜コース 25名
※受講場所は東京都世田谷区深沢になります。
出願期間：令和5年12月1日（金）～
令和6年1月16日（火）
出願書類：願書・受験票（所定用紙・写真添付）
最終学校の卒業証明書又は、卒業見込証明書
選考料の振込み金受領書のコピー
選考日程：令和6年1月21日（日）午後1時集合
選考場所：富坂キリスト教センター
選考内容：小論文（レポート）・面接
※詳細・入講案内は事務局までお問い合わせください。
Tel. 03-5805-6786 Fax. 03-5805-6787
Email: info@montessori.or.jp

第13回実践実技研修報告 令和5年8月26日(土) 10時～16時

文化担当講師 木村悦子 溝脇しのぶ / サポート講師 伊藤千恵子 齊藤春美

この夏、7年ぶりに文化の研修会を富坂キリスト教センター1号館会議室にて、行うことが出来ました。今回は、文化の「歴史」のなかでも「生命の表」の提示を中心に紹介し、その先へと続く「人間の歴史」を新たに作成した9枚の絵を使用して、参加者皆さんで紙芝居として作成しました。

近年発達した技術、研究により詳しくわかってきたことを、参加者の皆様でグループに分かれて共に文を考えて頂きました。絵本や資料を参考に1グループ1枚担当して頂き、最後に色を塗った絵と文を発表して頂きました。

学生のころは、十分に理解するゆとりがなかった「生命の表」について、丁寧に振り返る時間となり、またその「生命の表」わずか1センチほどで表されている、「人間の歴史」について猿人からホモ・サピエンスまでの歴史について、どのように進化していったかを学ぶ機会となりました。

「紙芝居」として皆様で作成する、という初めての試みでしたが多くの方にご参加頂き、完成した「紙芝居」が今後も、子どもたちと人類や地球について考えるきっかけとなればうれしく思います。

文責 木村 悦子



図書紹介

群馬医療福祉大学大学院 理論 文化講師 江島正子

『いのちのちから—マリア・モンテッソーリがほんとうに伝えたかったこと—』

高根文雄 高根澄子 著

本書は2023年9月7日発行の最新の刊行物です。

「たかね保育園」、「たかね第二保育園」、「横浜モンテッソーリ幼稚園」と、モンテッソーリ教育の施設で、半世紀以上ものモンテッソーリ教育の実践者である高根文雄・澄子ご夫婦が執筆者です。私はこの「横浜モンテッソーリ幼稚園」で、モンターノ先生の下で2002年3月に0～3歳コース・ディプロマを取得しました。現在、日本モンテッソーリ協会で私の周りのいろいろなこと協力をいただいている親愛なるモンテッソーリアンは、みんなその当時に知り合ったお友達です。

本書のもくじは以下のとおりです。

はじめに—3つの奇跡—

Column ①子どもたちのために 使命感がつかない世界の扉
序章 マリア・モンテッソーリがめざしたこと—すべては子どもたちが教えてくれる—

Column ②人類が未だ掘り起こせていない

Column ③モンテッソーリ教育の始まり

第1章 生命の援助への手引き

Column ④無意識的吸収と意識的吸収

第2章 無意識から意識への道行き

Column ⑤生まれながらのモンテッソーリアン

第3章 自由な体と自由な心を獲得する

Column ⑥集中精神について

Column ⑦「和」をもって貴しとなす

第4章 奇跡の軌跡—横浜・モンテッソーリ幼稚園の現場から—

Column ⑧東洋思想と西洋思想について

第5章 提示の技術

Column ⑨「よるこびとかなしみ」

第6章 想像力で世界へ羽ばたく

Column ⑩「After you!」「お先にどうぞ」は平和の素

おわり

参考文献

寄稿1. モンテッソーリ教育へのいざない 前之園幸一郎

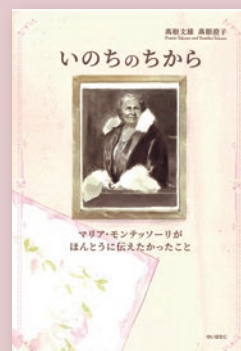
寄稿2. モンテッソーリが理想とした「新しい子ども」たち 野原由利子

「モンテッソーリ教育研究会」活動の歩み

本書には大きな特徴を二つ挙げる事ができます。

(1) 各章のあとにはColumnがあることです。私はColumnという項目を本書で初めて目にしました。Columnは、2019年9月24日に他界された文雄先生が生前に綴られた、モンテッソーリ教育についてのことばが掲載されています。お二人は既に2008年に、「マリア・モンテッソーリ・エレメンタリースクール」の開校というさらに大きな偉業も成し遂げておられます。

(2) 著者はモンテッソーリ教育の実践という視点から終始大変わかりやすいことばで執筆されています。ほんとうに最初から最後まで、日常の生活の子どもの姿がいきいきと動き、文字の向こうからことばが、こっちの心の奥へ語りかけてきます。



教具の扱いを再び学び始める

上智コース第18期生 令和5年度科目履修生 染野宗子

2022年3月に家庭福祉員を終えて15年間の整理をして、ついでに死活で持ち物の整理を始めると、32年間目の目を見つけた、円柱さし、溝文字、セガン板など、1990年上智コースの手づくり教具が出てきました。あああ〜。私のやる事はまだあるじゃない。我が子の3人と近所の子たちと使った教具を再び見てもう一度使ってみなければ、しかし使い方をだいぶ忘れていて手が動かない。ある日新聞の折り込みに「うめだ子供の家」の手伝い募集を見つけ、えっ、私が実習をした園でしょう。何もできないのに手伝います。と連絡してしまった。教具の扱いが出来ない。う〜ん、いじいじする。理事長の春見静子先生にスキルアップしたいと伝え、パンフレットを届けていただいたことに感謝します。

2023年5月から数教育の土曜コースを受講し、立方の鎖、足し算の蛇遊びまでゼロから始め、立法の鎖、1から1000の鎖。鎖の色とりどりの花々を作り美しいと思いました。1990年上智コースで廣澤弓子先生に印鑑を頂いていました。再び学び、尊敬も新たにしています。後半も楽しみです。



東京モンテッソーリ教育研究所附属教員養成コース令和5年度特別講義

「モンテッソーリ教育における「不利な立場の子ども」に対する支援」

2023年9月13日(水) 18時~20時

講師：早田由美子先生(日本モンテッソーリ協会副会長 千里金蘭大学)

記録：東京モンテッソーリ教育研究所 数講師 三浦直樹



日本モンテッソーリ協会副会長を務められている早田由美子先生をお招きして、17期と18期の学生が一堂に会して特別講義が行われました。早田先生は、イタリア留学時にモンテッソーリ教育に出会われ、海外でのご経験や深い学術研究を通して、モンテッソーリ教育の変遷と現状、そしてこれからについてご講義頂きました。また、何十年研究しても新しい発見があり、脳科学、心理学、神経科学といった新しい学問でモンテッソーリ教育をもう一度見直す動きがあることも伺いました。その穏やかで温かいお言葉の中に、先生の強い信念と私たちへのメッセージを頂き、モンテッソーリ教育の学びから、日々子どもたちへの支援を改めて心に刻みました。

ご講義では、モンテッソーリが生きた時代背景や、なぜ不利な状況の子どもに関心を持ったかについて原書から訳され、ご紹介を頂きました。モンテッソーリが不利な立場の子どもに対する支援として、当時教育の対象になっていなかった知的障害児や発達遅滞児や、社会生活という環境に不応を示す子どもや、家庭環境や経済状況が恵まれず、就学時から学校文化に適應しにくく格差にさらされている子どもなど、すべての子どもを視野に入れた教育の必要性と、家庭環境と学習効果に相関関係があり、格差のない環境を学校環境の中で育む必要性を訴えていたことを話されました。

また、交流のあったマハトマ・ガンディーの「彼女の多くの学校があまりにもエリート主義になっていて、誰でも学べる環境ではないではないか」との提言は、モンテッソーリの意識としては決してそうではないが、様々な人がモンテッソーリ教育を受けたいと思った結果でもあり、不利な子どもに立った教育に尽力した一方、中層階級や貴族や外交官といった裕福な家庭の子どもにも提供されたことも事実でした。ただ、不可触民の子どもたちの勤勉さや集中力に魅せられ、いろいろな角度の不利な子どもたちに出会い、インドで原点回帰となるような経験を得たことは、モンテッソーリにとって大変意味深かったと、伺いました。

後半には、算数教育と文化的領域の発展について、ご講義を頂きました。数は、精神活動を促進する科学的な刺激であり、抽象の頂点へ到達するための教育を行うものとして、モンテッソーリは、従来の算数教育批判と新たな方法を提案しました。日本では統計上算数が楽しくないと答える子どもが大変多いです。また、経済的困難などにより家庭で子どもが十分な生活体験が出来ないときに、算数の概念が身に付けられず、数感覚が十分に育たないという研究があります。モンテッソーリの分かりやすく、楽しく発見に満ちている算数教育が期待されます。そして、文化的領域では、子どもたちは個々の知性の自由と、選択についてとやかく言われたくないことを訴えていて、子どもの知的欲求にただ応えるべきであり、押し付けるべきではないとモンテッソーリは考えています。